



一鍼たすけ



東京都福祉保健局委託学術研修会

講演：社団法人 東京都医師会 野中 博 会長

詳細は3ページをご覧ください



H24.9.30 日本鍼灸会館2階講堂

新春のお慶びを 申し上げます



東京都鍼灸師会『新年会』

日時 H24年1月12日(土) 18:00~20:00

会場 東京都庁 都議会議事堂1F 銀座ライオン

目次

- ② 倫理綱領
- ③ 第44回 東京都福祉保健局委託
学術研修会(前期)
- ④ 学術部「特別症例検討会」
- ⑤ “ 「鍼灸臨床セミナー」
一鍼たすけ
- ⑥ 青年・女性部会「親子スキンタッチ教室」
- ⑦~⑩ 支部だより
- ⑪ 「一鍼たすけ」創刊にあたり
- ⑫ お知らせ 編集室

公益社団法人 日本鍼灸師会 倫理綱領

日本鍼灸師会会員の遵守すべき倫理綱領を次のように定める

1. 私は生涯を人類への奉仕に捧げることを誓う
2. 私は常に患者の健康の回復と保持増進を第一に考える
3. 私は患者の信頼に応じて秘密を厳守する
4. 私は良心と誠意をもって治療に専念する
5. 私はたえず鍼灸の学と術について最高の水準を保ち疾病に関する知識を一層深め伝統を守りその伝承に努力する
6. 私は鍼灸治療の有効性を高めその学術的研究の業績を重ねることによって他の医療分野から信頼と強調を確保し患者の治療に努力する
7. 私は鍼灸治療の適応を十分認識し無効な治療を行うことなく更に過誤を犯すことのないように努める
8. 私は常に自己の職責に誇りと責任をもち鍼灸師としての名誉と尊厳をもって鍼灸の発展に努力する
9. 私は治療に当って宗教国籍人種政党社会的地位の違いによって患者に果すべき義務を変えることはしない
10. 私は流派を超えて相互に鍼灸師を尊重し鍼灸界の団結を高め鍼灸師の資質向上のために努力する



第44回 東京都福祉保健局委託学術研修会(前期)

講演要旨は9月号に掲載されています

「地域医療における医療連携」の重要性について

社団法人 東京都医師会会長 野中 博 先生



ご講演は「超高齢化社会に向けて、医療の考え方が大きく変わった」これまで医療は「なおす医療」が中心であったが、今はそれを含めて「支える医療」に変化してきている。病気を治した後も生活者が「地元・地域での生涯を支えるための医療」であり、そのためには医療・介護・福祉の関係者の協働がいよいよ重要になってきている。という内容でした。私たち鍼灸業界も積極的に地域医療に参加する。もしくは介入することの重要性。そして向かうべき一つの方向性をあらためて認識いたしました。

「中医鍼灸による脳血管障害・認知症の予防と治療 …総合病院との医療連携」の重要性について

牧田総合病院関連施設 牧田中医センター部長 植松 秀彰 先生



永年に渡り医療機関と密な連携をとり中医学による鍼灸治療を実践され、特に脳血管障害の予防・治療に積極的に取り組んでいます。それらの疾患治療を医療機関と連携しながら進めるには客観的な評価が重要であり、そのための共通言語として「理学療法的評価法」を取り入れています。治療現場での写真や症例も多くご提示いただき、脳疾患後遺症による下肢の麻痺に対する治療法を、中国鍼を用いてご披露されました。多くの参加者がモデルとして受け、その効果を実感しました。

*東京都医師会長のお話と、脳血管障害における鍼治療のお話と実技があり、首都圏を台風が直撃したにもかかわらず、受講者の人と熱気で会場が埋まる研修会となりました。

次回(後期)は1月20日(日)に開催致します。この日の研修会は当会主催「東京マラソン2013ボランティア」参加者の必修研修会です。もちろんボランティアに参加されない方もご来場下さい。会費は無料です。

詳細はホームページ、案内ハガキや当会報の裏表紙をご参照下さい。

多数のご参加をお待ちしております。

学術部長 有馬 太郎

不妊症に鍼灸が有効であった症例

「特別症例検討会」 年1度：11月開催

座長：浦山 久昌(大田)

演者：『不妊症治療の実際』加島 郁雄(千代田)・岩元 健朗(杉並)・小池 英義(渋谷)

下腹部圧痛点の治療は共通していましたが治療手法は三様でした。

- ①加島氏 おもに腹部圧痛の緩和
 - ②岩元氏 より全身的治療で主に気の流れの調整
 - ③小池氏 古典的特効穴と独自の手法を折衷した手法で腰腹部の圧痛緩和
- それぞれの治療視点からアプローチしていました。



不妊症の治療を希望して鍼灸院に来られる患者様の多くは、婦人科で様々な試みを受けてきており、そもそも妊娠確率が決して高くない症例であるがゆえに、鍼灸院レベルでの治療成績は決して良くはないのが現実です。しかし三氏の治療院では成功例をいくつもお持ちであるという所以は、鍼灸院レベルで唯一得られる情報である基礎体温の変化をきちんと提供していただき、両者で現状と経過の共通認識をとること。また体表の変化を探る丁寧な触診と根気よく励ます治療家としての姿勢。であると示唆されました。当日は不妊症治療に興味のある多くの受講者から質疑応答が時間ぎりぎりまで交わ

され、年内最後の症例検も盛会裏に終わることができました。多数のご参加誠にありがとうございました。



**次回の症例検討会は1月24日(木)
午後7時30分です。**

座長を岩元氏(杉並)にご担当いただき、元吉 正幸氏(豊島)、橋本 成正氏(埼玉県師会)に症例をご報告いただきます。演題は東京都鍼灸師会のホームページからご確認いただけます。學術部の行事日程もアップしておりますので、併せて宜しく願いいたします。

症例報告は貴重な臨床体験であり、体験から多くのことを学ぶことができます。平成25年度もより良い症例検討会となるよう運営してまいります。本年も多数のご参加をお待ち申し上げます。



学術部長 有馬 太郎

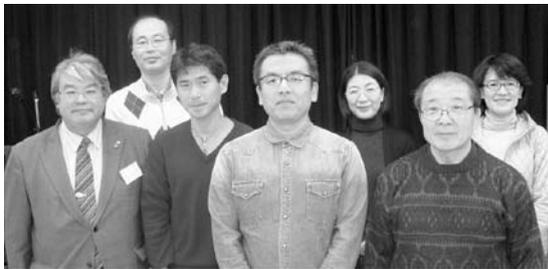
「頸と上肢の痛み」セミナー

12月6日(木) 19:30 ~ 日本鍼灸会館2階講堂

*参加者24名 講師:小池 英義(渋谷) 草間 健二(板橋)

「頸・上肢痛」最終回。前回までの内容も踏まえて治療院への来院から問診・徒手検査・治療・生活指導まで、実際に先生役と患者役を立てロールプレイ形式で行いました。

実際の流れで、問診や検査所見から考えられる疾患や除外診断をし、その解説を加えながら治療を実施しました。治療後は活発な質疑応答が行われ参加者の方には有意義な場となりました。



「頸・上肢痛」受講修了者

次回のお知らせ

1月10日(木)「五十肩」(全3回)

第一回目内容:「問診」と「検査法(前半)」

当セミナーは徒手検査法を正しく理解し鑑別能力を高めることを目的としております。高い鑑別能力は患者さまへの信頼につながります。経験の浅い方は正確な手技の獲得や臨床のヒント探しに、ベテランの方は臨床能力の再確認などにご利用頂ければと考えております。どうぞお気軽にご参加ください。

1疾患につき3カ月を1クール全3回(腰痛・坐骨神経痛は全4回になります)としクール間は休み月が入ります。開催疾患については当会のHPでスケジュールをご確認ください。

参加費 500円

第1木曜日 19:30 ~ 21:00

日本鍼灸会館2階講堂にて

臨床セミナー実行委員 草間 健二

一鍼たすけ

霜は降りる ❄️❄️❄️❄️❄️❄️❄️

都会にいと気がつかない 田舎ではあたりまえ
出かける時間 フロントガラスに霜がびっしり
視界なし ウィンドウォッシャー液も凍りつく
昨冬 朝8時 マイナス4℃の日もあった
60℃のお湯 2リットル必要
隣家の車 ガレージ屋根があるので霜がない
まさに「霜は降りる」

腰痛は鍼灸が「いいね!」

朝起きたら腰に痛みを感じた。それから30分動いていたら痛みはなくなり、普段通りに戻った。どうしたんだろう? 確かに ①疲れがたまっていた ②寒い日の朝や 夏に冷房をかけて寝ると起こる… これは俗にネゴシと呼ばれる症状です。身体の筋肉や関節が一時的にかたくなって症状が現れます。ほとんどの場合、鍼灸治療が良く効きます。

お子さまのすこやかな健康維持・増進に

親子スキンタッチ教室

11月30日(金) 10:30 ~ 12:00 上目黒住区センター

主催：青年・女性部会

目黒区「後援」事業に認定されているため、区報「めぐろ」で参加者を募りました。

2歳児のパタパタ走り回るお子様は横山青年部長に相手をお願いでき、安心して講座をすすめられました。写真を撮っていた中央支部の中安先生から「最初は鍼灸の



活動なのでお母さんとはちょっと距離があるものかと思っていましたが、林先生とお母さん達の距離がすごく近くてお母さんたちが鍼灸というものを隔たりなく、自然に受け入れているのをとても新鮮に感じました。鍼灸のすそ野を広げるにはいい活動だと思いました。」と感想をいただきました。

参加者から「大変参考になりました。自宅でも毎日やりたいと思います。」「とても為になりました。毎日続けたいと思います。」「子どもの健康はとても気になるところです。大変役に立つ教室でした。家族でやりたいと思います。」「皮膚が弱い子なので実践していきたいです。」「お灸は祖母が生前よくやっていて年寄りのやるものだと思ってましたが、今回、身近に感じました。」「人数がちょうどよくて心地よかったです。毎日の子どもの体にスキンタッチすれば小さな変化も見逃さないんですね。鍼灸のすごさは知っていたのですが子供にも取り入れられそうです。」など感想を頂戴し、もっとツボを知りたい、鍼灸が身近なものだと感じたとお声をいただき嬉しく思います。今は中学生まで医療費無料の自治体も多くなり、お母様がお子様の体をお医者様任せにしてしまうことが多くなっていると

感じています。乳幼児時期から体と向き合う健康習慣を身につけるお手伝いが出来たらと思って活動しています。

ご興味ある方はどうぞお気軽にご参加ください。

赤ちゃんへの指導の際に、お母様にも体験し効果を実感していただくと、家でも続けようと思っていただけなのです。また教室終了後、お



一人のみですが肩井にお灸をすることで肩こりが和らぐことを実感していただき、皆さんにお見せしたので、ご自宅でもお土産のお灸のサンプルをすぐ使っていただけそうに思いました。



2月15日(金) 10:30 ~ 11:30

目黒区 八雲児童館

2月20日(水) 10:45 ~ 11:45

大田区 久が原児童館

*見学や相談をご希望の方は

目黒支部 林 真紀子までご連絡ください。

お近くの鍼灸院は「鍼灸ネット」で検索できます。

<http://harikyu-tokyo.or.jp/acupuncture/branches>

支部だより

新宿支部

新宿区民のみなさまに、お一人15分の 鍼灸を体験していただきました

新宿区民祭り「ふれあいフェスタ2012」 10月21日(日) 10:00～15:00

*参加者27名 (東鍼会会員12名・一般鍼灸師7名・学生8名)

参加16年目です。

新宿区民祭り快晴の日曜日にメイン会場「やくどうの広場」で特設テント施術所を1日開設しました。約170名の区民の皆様にお一人様15分の施術を体験していただきました。



初めてスタッフとして参加した会員の声

初めて新宿区祭りのボランティアに参加しました。普段はベッド上での施術であり、今回体験した椅子での座位の施術は、私にとっては新鮮なものでありました。術後「痛くなくなった」「軽くなった」に続いての「ありがとう」には、臨床経験半年の私にとって、貴重な鍼灸師冥利に尽きる一日でした。

鍼灸師 広浜 隆志

諸先生方の色々な手技を間近で拝見できたり、先生方からご指導いただきながらとても貴重な経験をさせていただくことができました。

鍼灸師 大垣 隆之

治療家として活躍されている先生方の施術や、患者様への接し方を間近で拝見し、一般の方の鍼灸に対する先入観や、日常的な体の不調を患者様から直接伺うなど、学校内に留まっています

は得られない経験ばかりでした。講義を受けるのではなく、自身の実感を得られた非常に中身の濃い一日でした。

学生会員 大瀧 諒子

鍼灸でのボランティアは初めての経験で戸惑いました。私は幼い頃から鍼灸を受けているので、鍼灸を受けた事がない人に「痛いから、嫌だ。」などと言われ、自分の認識との差に驚きました。その一方、治療体験の列が途切れる事がなく、人気の高さにも驚きました。また15分と限られた時間とパイプ椅子2席で患者様を満足させることのできる鍼灸を間近で見て、自分の知らない鍼灸の素晴らしさを知ることができました。先生方の治療を見て、患者様とのコミュニケーションの重要性をひしひしと感じました。

学生会員 中澤 俊介

ボディワークからエネルギーワークへ

「氣とエネルギー」茶話会 11月4日(日) 12:30～ 高田馬場:そらま
*参加者14名 (東鍼会会員7名・一般鍼灸師5名・学生2名)

昨年からはまった「氣とエネルギーの茶話会」も4回目を迎えました。今回のテーマは統合医療としての鍼灸治療の役割です。今回から参加される方も多くいらっしゃいましたので、清水先生から1回目からの話の流れのおさらいをしていただきました。

まず、鍼灸というものが、筋肉や神経という現在の科学の基盤となっている「目に見える物質」に働きかける「ボディワーク」としての側面に加え、その存在が少しずつ科学的に発見されてきている「目に見えないエネルギー」に対するアプローチを目的とした「エネルギーワーク」としての技術を含んで発達してきていることを、先端の物理学の言語に置き換えて説明していただきました。それが、鍼灸が持っている人間を多面的な次元から捉えるホリスティックな治療としての特徴です。



今年度：後篇のテーマは「鍼灸と統合医療」

現在、統合医療は様々な分野から専門性をもった方たちが医療チームとして、現場に参加しています。そのようなチームの中では、共通の言語を持って活動していなくては、一緒に仕事をしていくことはできません。けれども、現在の鍼灸師の求められている役割は、共通の言語を使って共通の「目に見える物質」に働きかける治療を行う



講師：清水眞子氏

ことになってしまっています。しかし、それでは、お互いの専門分野を補完しあうことはできません。鍼灸師は、共通の言語を使って「目に見えないエネルギー」に対するアプローチを目的とした「エネルギーワーク」をすることでチームに貢献しなければ、その存在意義を持たないのです。

4回の茶話会を通じて、このような話の展開を共有できたのではないかと思います。課題としては、どのように「エネルギーワーク」の技術を伝承していくか？ 共通の言語でどのように「エネルギーワーク」を説明していけるのか？というものがありません。今後の議論ではこのような課題に関して具体的に議論を進められればと思っています。清水先生のレジュメに「2012 時空間日和」ということばがあるのが印象的です。2012年は物理学の分野で様々な進展がみられました。鍼灸の持つ「氣」の概念を最新の科学を元に考察し直すには、ちょうどいい時期にあるのかもしれませんが。

鍼灸師 小林 哲也

医療者としての感染予防・手洗い実践

「感染予防は手洗いから」 11月14日(水) 19:00～ 高田馬場：戸塚地域センター
*参加者8名 (新宿支部4名・一般鍼灸師2名・学生2名)

感染予防で大切な手洗いとうがい。特に今回は正しい手の洗い方を中心とした講演でした。講師は新宿区鍼灸師会の衛生顧問である呉竹学園東医研の古屋英治先生・東京医療の上原敏子先生のお二人。手洗いの実技と落としきれない部分の染めだしのために、今回は蛇口の多い調理室を会場にしました。



手洗いチェッカーで確認 指先・付け根・指間の汚れが落ちていない (右)バンドエイドの汚れは全く落とせない



指の先は汚れていることを認識していましたが、横と付け根まで洗い落とすのが難しいことを知りました。目から鱗です。講習会を受けると、手袋着用の必要性を改めて感じます。地味な講習ですが、引き続き開催されることを望みます。

新宿支部 木村 茂

千葉大医学部「解剖実習」見学

11月30日(金) 15:00～17:00 主催：新宿区鍼灸師会
*参加者37名 (東鍼会会員7名・その他一般鍼灸師と学生)

河野 俊彦 先生と指導助手の先生 そして医学部研修生(鍼灸師)2名も指導にあたってくださいました。

■ 新宿支部—これからの活動 ■

研修会・公益活動は「生涯研修単位」が認定されています。

【マラソン関連】

- 1) 1月 8日(火) 19:00～ 新宿シティーハーフマラソン事前研修会
「皮内鍼のコツ」 講師：呉竹学園 古海 博子先生 @そらま(高田馬場)
- 2) 1月13日(日) 13:00～16:00 「AED救命認定講座」 @東京消防庁新宿署
- 3) 1月27日(日) 8:30～15:00 「第11回新宿シティーハーフマラソン」 @国立競技場特設テント
- 4) 2月24日(日) 「東京マラソン2013」 (新宿支部参加) @有明ビックサイト

【研修会】

- 1) 鑑別法：「頸肩四肢 最終回」 詳細未定 後日HPにて
ホームページ <http://shinjuku-hari.com/>

お問合せ hari-info@shinjuku-hari.com 新宿支部長 井坂 卓司

第12回「はりとお灸の集い」 11月11日(日) 13:00～
品川区中小企業センター 3F大会議室

第1部 「鍼灸で健康 & 長生き」 南品川鍼灸接骨院院長 守屋 哲男 氏



スライドを使いながら解り易く「健康で過ごすには。東洋医学とは？」など健康の大切さそして東洋医学の重要性を解り易く説きました。参加者は一般高齢の方もいて細かく噛み砕いた内容に、うなずいている方が多く見られた。お弟子さん達による「鍼灸の体験」として希望者に「足の三里鍼」で刺鍼の感触を体験していただきました。

第2部 ギター漫談 「笑いと健康」 堺 すすむ 氏……抱腹絶倒の漫談でした。



笑う事の大切さ、として、免疫力の増加を笑いを交えての力説。本当に大笑いの公演でした。来場の高齢者にも解る、漫談は、私達には、話術の大切さを痛感させられました。

これからは「笑いを取る会話術」をもっと身につけなくては。と思いました。

第3部 「美と健康」 アーユルヴェーダー 榎戸 亜希子 氏



「美」とインド伝統医学のアーユルヴェーダーを深く勉強してきている先生で、伝統医学の重要性や普段の生活習慣の中にアーユルヴェーダーを取り入れることの大切さを語った。アーユルヴェーダーは3つの体質に分け、その人その体質に合った健康法を活用することを勧めている。時間が無いために来場者の体質の分類が出来なかった事が少し残念でした。

この3部構成により午後1時30分～ 4時30分まで「アツ」と言う間に過ぎ、質疑応答などの時間が取れなかった。次回はもっと時間に余裕のある集いになくはないという反省点もあった。

品川支部長 細木 信孝

いっしん 一鍼たすけ 創刊にあたり

先人から脈々と受け継がれている「鍼灸」。一本の鍼が「身体を調べ」「病気を克服する」一助となるよう想いを込めて命名されました。また、このような人物でありたいと願うことから。



本年1月号より、公益社団法人申請にあわせて「一鍼たすけ」を創刊する運びとなりました。

これからも、都民の皆さま、国民の皆さまに、健康の素晴らしさや予防の大切さをお知らせしてまいります。

今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

社団法人東京都鍼灸師会 会長 高田 常雄

いっしんたすけ 読みがおなじ「一心太助」について (フリー百科辞典Wikipediaから転載)

職業は魚屋。義理人情に厚く、江戸っ子の典型として描かれることが多い。三代将軍徳川家光の時代に、大久保彦左衛門のもとで活躍したとされる。架空の人物というのが定説であり、神奈川県小田原の老舗魚問屋「鮑屋」の主人がそのモデルだとされている。一方、松前屋五郎兵衛建立の「一心太助石塔」と書かれた太助の墓が、港区白金立行寺の大久保家墓所の傍、それも彦左衛門の一番近くに立っており、太助は実在の人物で、若いころ大久保彦左衛門の草履取りだったとも言う。大久保彦左衛門は小田原藩主大久保忠世の弟であり、現在でも魚市場で有名な東京の築地は、当時小田原町と呼ばれたほど小田原から移動してきた人が多く住んでいたが、物語の原型はそこで成立したようである。

● 伝説

一心太助は百姓であったが、あるとき領主の大久保彦左衛門に意見したのが気に入られ、大久保家で奉公することとなる。大久保彦左衛門の皿を誤って1枚割ってしまった腰元お仲が手討ちで殺されそうになるのを、一心太助が知る。一心太助は彦左衛門の前で残りの皿7枚を割り、彦左衛門がお仲および一心太助を許す。一心太助は、お仲と結婚し、武家奉公をやめてお仲の実家の魚屋で働くことになる。その後も、彦左衛門に意見し協力することとなる。

● 登場する主な作品

数多くの講談・歌舞伎・映画・テレビドラマ・漫画・演劇・演歌などに登場する。

「マンガ日本の古典」シリーズは、古典文学を漫画化しようというものであったが、本作については三河物語の著者である大久保忠教が本を出すに至ったいきさつを漫画にしており、それを主人公である一心太助の目から見るという内容になっている。

平成24年度 第44回東京都福祉保健局委託学術研修会(後期)

1月
20日
日曜日

『スポーツによる足関節の障害』

田淵整形外科クリニック 院長 田淵 健一

『東京マラソン2013ボランティア活動』

～鍼灸師だからできるチームで支えるランナーのための支援活動～

(公社)日本鍼灸師会 副会長 小松 秀人

会場 日本鍼灸会館2階講堂(豊島区南大塚3-44-14)

時間 13:00～16:15

会費 無料

ホームページアドレス <http://www.harikyu-tokyo.or.jp>
事務局の業務時間 午前9時から午後5時まで。土曜日・日曜日・祝日は休業いたします。

すべてのお問い合わせ **03-3985-7501** まで

編集室



🌸🌸🌸 新年あけましておめでとうございます!! 🌸🌸🌸

新年号から名称が「一鍼たすけ」になりました。「たすけ」は 昨年の7月に「おぎゃー」と誕生し、またたくあいだに成人しました。とはいっても見習い社会人です。鍼灸についての学術研鑽や、それぞれの地域で実践している普及啓発活動を軸にお知らせをし「鍼灸のファン」が増えることを願って、アピールできる冊子を作成したいと思います。鍼灸業団体：東京都鍼灸師会の普及啓発「公益活動」に重要な広報誌。みなさまと共に成長してゆきたいと思えます。(一般のみなさまからの投稿もOK!)

今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

広報部員一同

発行者  **社団法人 東京都鍼灸師会** 会長 高田 常雄

住所 〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-44-14 日本鍼灸会館内

電話 03-3985-7501 FAX 03-3985-7526

メールアドレス info@harikyu-tokyo.or.jp

《広報部長》 天野 寛敏 《編集委員》 鳥海 春樹 豊田 和宏 二階堂 貴子

3月号の原稿締切：1月末日 発行予定：3月10日